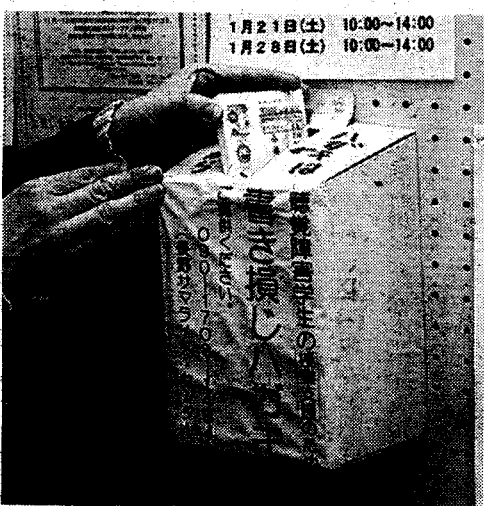


# はがき寄付 協力仰ぐ

要約筆記のNPO法人

## 聴覚障害の学生を支援

## 活動経費に充当



書き損じはがきを集めるための収集箱

聴覚障害者をサポートするために音声情報をパソコン画面上に文字で表示する要約筆記サービスを展開している塩尻市のNPO法人(特定非営利活動法人)長野サマライズ・センターが、書き損じはがきの寄付を呼びかけている。センターは聴覚障害のある学生が講義を受ける際の支援に力を入れているが、対価として受け取るサポート料金は「持ち出し」になるケースが多い。活動資金を少しでも多く確保するため、市民に協力を求めることにした。

センターはJR塩尻駅東口にある商業施設「おじり」内の市民公益活動センターに専用のはがき収集箱を設置している。寄せられたはがきは、郵便局で一枚当たり五円の手送料を差し引か

れた分の金額の切手と交換できる。はがきと交換して手に入れた切手を文書発送などの通信事務に使い、浮いた分の現金を要約筆記者の人件費や、機器の購入費などに回す。

聴覚障害のある学生向け要約筆記サービスは、松本市の松本短期大学や上伊那郡辰野町の信州豊南短期大学、上田市の長野大学などで行われている。サマライズ・センターのスタッフが講義を受ける学生と同席して、教員の声を即座にパソコンに打ち込み、画面で確認できるようにしている。十六年度には、約四百三十時間分の講義で利

用があった。講義への理解が深まる

### 写真飾り楽しく作る

#### 就園前の幼児と母一緒に

塩尻市長畷のみずほ保育園(西窪明園長)で十八日、就園前の幼児と母親が集う遊びの広場「つぼみちゃん広場」が開かれ、親子が一緒に写真飾りの作業をした。六月に開講した広場の卒業製作で、十一組の親子が和気あいあいと楽しく取り組んだ。

色紙や大粒のカラビーンズを紙皿に張り付け、簡単な写真飾りを作った。広場での活動の記念



ため学生からは好評だが、サービスの利用料金は一時期限定で二千百程度かかり、学校ではなく学生本人が負担しているケースもある。センターにとっても、スタッフの交通費が受け取る利用料金を上回ってしまうことがあり、厳しい運営を強いられている。

センター副理事長の小笠原美千代さんは「はがきの寄付ならば、気軽に協力してもらえ。聴覚障害学生の支援はあまり知られていないが、多くの人に理解してもらいたい」と話している。書き損じはがきの寄付について問い合わせは小笠原さん(電話86・1619)へ。

宴会料理ご注文のお客様限定

# 人数分500円割引

◆温物：大

季節 四、二〇